

当院における血液培養実施状況

～新病院移転前後の推移～

◎辻村 伊鈴¹⁾、山田 里子¹⁾、若林 広美¹⁾、中村 和人¹⁾
市立伊勢総合病院¹⁾

【はじめに】

血液培養は、血流感染症（菌血症や敗血症）を診断する目的で実施される重要な検査である。また、血流感染症の診断精度を高めるために、血液培養の複数セット（2セット）採血を推奨する医療機関が増えている。

当院でも以前より複数セット採血を呼び掛けていたが、決して高いとは言えない状況であった。

2019年1月の新病院移転に伴いオーダーリングシステム更新となったため、複数セット採血をオーダーしやすいシステムの構築を行った。今回、当院における血液培養の実施状況について検討したので報告する。

【対象と方法】

2014年4月から2019年5月までの約5年間に提出された血液培養6,580件を対象とした。オーダーリングシステムについては、移転前（2014年1月～2018年12月）はNEC社MIRAIsであったが、移転後（2019年1月～）FUJITSU社HOPE/EGMAIN EXに変更となった。血液培養装置については、日本ベクトン・ディッキンソン株式会社BACTEC9120から同社BACTEC FXに変更となった。血液培養提出検体数、複数セット採血実施率の推移について調査した。

【結果】

血液培養の提出検体数は、2014年877件、2015年1004件、2016年1307件、2017年1345件、2018年1437件と徐々に増加した。複数セット採血実施率は、2014年27.0%、2015年33.9%、2016年63.5%、2017年62.2%、2018年71.2%と増加した。新病院移転後の2019年1月は66.2%であったが、2月以降は

84%以上を継続している。

【考察】

血液培養の提出検体数は2014年の877件から2018年の1437件と年々増加傾向にあり、複数セット採血実施率も2014年の27.0%から2018年の71.2%へと増加している。特に新病院移転後の複数セット採血実施率は、移転直後の1月は減少したものの、2月以降は増加している。1月は移転による混乱やオーダーシステムの認知不足により減少したが、2月以降は混乱も落ち着き、細菌検査室やICTより複数セット採取の有用性を普及したこと、複数セット採血のオーダー方法を電子カルテ掲示板に掲載した結果、複数セット採血オーダーが容易になったことにより、増加したと考えられる。

今後、複数セット採血が血流感染症診断において検出率の向上や汚染の判断のため重要であることを再度認知、普及し、細菌検査室より有意義な結果報告を行うことで、感染症診断および治療に貢献していきたい。

連絡先：0596-23-5111(内線2131)

E-mail：saikin_2131@hospital.ise.mie.jp